様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 １８ 日現在

機関番号：６２６０８
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３５２０２７２

研究課題名（和文）栄花物語本文研究の新展開と受容の追究

研究課題名（英文）A study of new development and the reception of the text on Eiga Monogatari

研究代表者
中村　康夫（NAKAMURA, Yasuo）

国文学研究資料館・研究部・教授

研究者番号：６０１４４６８０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　3,200,000円、（間接経費）　960,000円

研究成果の概要（和文）：　絵入版本『栄花物語』は江戸時代初期に刊行された。その絵入版本は抄出本文を持っており、作品を熟知した人物によって作成されたと思われる。それは誰か。今回、研究代表者が入手した写本は絵入版本と同じ本文を持っており、「季吟しるす」の識語を奥に持っている。加えて、この写本の文字は、絵入版本の文字に酷似している。そこで、この写本と絵入版本との関係を調査することにより、未知の事柄を解明した。その結果、北村季吟は版本刊行に関与していると思われた。
　学習院大学蔵『栄花物語』の本文は古体なものであると報告されたが、さらにその価値について調査する必要があった。現在、古筆切なども含めて調査を続けている。

研究成果の概要（英文）：As for "Eiga Monogatari" printed with the cut was published early in the Edo era. The text of the printed book is the excerpting text and can be made only after a person knowing a work well. Who is the person? The manuscript that this study representative was available this time has the excerpting text same as the text of the printed book, and there is an editor's note of "written by KIGIN" in the depths. In addition, the letter of the manuscript closely resembled it with the letter of the printed book. I investigated the relations the manuscript and the printed book, and it was thought that any questions became clear about printed book with the cut. As a result, it was judged that Kigin Kitamura was concerned with publication.
It was reported that the text of the Gakushuin University storehouse "Eiga Monogatari" was archaic style of text, but it was necessary to investigate the value of the text. The comparison with short pieces of old writings continues an investigation now.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：栄花物語　本文　抄出本　北村季吟　絵入版本　学習院本栄花物語　古い形　本文の価値

１．研究開始当初の背景

栄花物語の諸本研究は松村博司氏によって精力的に進められ、その結果、梅沢本がもっとも尊重すべき一本であるとされた．しかし、近年、久保木秀夫により梅沢本に対する疑義が提出され、西本願寺本に注目すべきであるとされている．そしてまた、平成 22 年の秋の中古文学会に中村成里によって報告された学習院本は存在しないとされていた証本系の一本であり、これは大発見である。

このように、栄花物語の本文研究は大画期ともいうべき見直しの時期を迎えており、新たな方針を見出さなければならない。

さらに、中村康夫は絵入版本の祖本とも目される一本を入手した。その本の奥には「季吟しるす」と識語があり、それに注目して絵入版本の本文抄出が季吟の手になる可能性を考えている。

本研究は学習院本と中村本の研究を進め、栄花物語享受の全体像の解明を進める。

２．研究の目的

(1)栄花物語の諸本研究は近年新たな展開の様相を見せている．平成 22 年の秋の中古文学会に中村成里によって報告された学習院本は存在しないとされていた証本系の一本であり、これは大発見であるといえる。学習院本はすでにマイクロフィルムとしては国文学研究資料館に所蔵されているが、国文学研究資料館発足当時の初期の物であり、画像は極めて悪い．本文も見えないところがある．これを撮影し直さないといけないが、この作業と並行して現在までに注目されている代表的な諸本を調査し、諸本の異同を確認すると同時に、該本が顕昭言うところの証本であることを内証から実証する．

(2) 研究代表者中村康夫は絵入版本の祖本とも目される一本を入手し、奥に「季吟しるす」とあるのに注目している．つまり、絵入版本の本文抄出は季吟の手になる可能性について究明する必要があるのである．中村本は、列帖装金襴緞子表紙で本文は絵入り版本と一致する．しかし、絵入版本にある目録・系図はなく、本文のみで絵がない．端正な文字は季吟自筆の可能性を伺わせるが、これは季吟の筆致をある程度調査して認定に及ぶ必要がある。中村本は装丁の古体からして江戸初期の可能性は十分あるが、可能性だけを考えれば、出版された絵入版本の本文だけを書写したものという可能性もある．それを確定するためには、なぜ目録・系図がないのか、なぜ絵がないのかを考える必要があるが、加えて、季吟の栄花物語に対する関わりの程度を調査する必要がある．これを研究期間内に終わらせるためには、季吟著述の文献によるデータベースを構築するのが正確で早いと思われる．

栄花物語絵入版本は、その本文の優れている点など、栄花物語詳解などによっても高く評価され､その内容の抽出力については 2005 年の中村康夫の論文にも指摘したところであり、この本は平安の古典に対する豊かな知見を備えた人物によって出来したことは間違いない．そこを手がかりに、着実な研究の展開によって、栄花物語享受の一つの事実を明らかにしたいと思う．

栄花物語絵入版本は寛文の頃の出版とされており、その書肆名から京都での板行であることは間違いない．この寛文という時期といい、京都という場所といい、まさに季吟の活躍する時代と場所に相応し、外部徴証としては、絵入り版本の本文抄出をした人物が季吟であることは推察できるのである．しかし、学問的には、季吟が最も相応しいと判断される内部微証が必要であり、そこを指摘する必要がある．また、中村本の可能性を確認していく中から、栄花物語が絵入抄出本の形で享受されていった内実が明らかになり、古典の姿が重層的に見えるようになるのである。

(3)本研究は学習院本と中村本の研究をさらに調査等を通じて進め、栄花物語享受の全体像を明確にするとともに、学界にその優良な本文を提供する。本研究の研究期間は 3 年とし、最終年までに学習院本については翻刻を電子情報化し、出版の価値が判定できた場合には出版することとする。価値判定に至らなかった場合には、研究者に限って電子化テキストが利用できるように工夫する。中村本については、学会発表や論文作成、展示等にも力を向けて資料が見られる機会を設け、閲覧を必要とする研究者が必要とする資料を入手できるようにしたい。

３．研究の方法

学習院本は、証本として、今現在普通に見られる諸本とはかなり大きい異文を持っており、また、異文というレベルを超えた異なりも持っている．それらを総合的に見つめ直すことによってその証本としての性格を明確に指摘できると思われる。そのためには、丹念な調査が必要であり勘物など、活字化されていない文字情報なども考証の対象とする必要がある．初めは国文学研究資料館に集められたマイクロフィルムによって進めるが、調査が必要な文献は調査に行く。また、諸本系統を大きく見直す意味から、古筆切などにも注目し、考証して論文にまとめる。

中村本は、季吟自筆本の調査から奥書の信憑性を推定するところを起点とし、絵とどういうふうに出会うかなど、絵入版本板行の実態に向けて考察を進める．そして、季吟の湖月抄に注目したデータベースを構築する中から、季吟における栄花物語の位置を正確に見定められるか検討する。また、広く江戸初期上方の文化人の活動も念頭に置いて季吟が本文を抄出した可能性を探る．当然のことながら、季吟本栄花物語というべき一本が存在することにも注目する。

４．研究成果

(1)研究代表者中村康夫が調査した架蔵本栄花物語は、江戸時代初期に刊行された絵入栄花物語刊本の祖本ともいうべきものであると判断された。その本文は抄出本文を持ち、調査の結果から、本文を抄出した人物は北村季吟であるとほぼ断定される。

北村季吟が栄花物語に深くかかわったということ自体、今までに指摘されたことはなく、文化の流れを把握するうえで大変大きな発見をしたことになると思われる。

北村季吟が関わったことをより深く決定づけるような内証をデータベースによって見つけられれば良かったのであるが、湖月抄のデータベース化を行い、検索等による確証に努めたが、根拠にできるほどの内証をつかむことはできなかった。しかし、雲英末雄氏の、北村季吟が版下作成に関わったという指摘は大きいものがあり、実際にその筆跡を見比べても、絵入版本の版下作成者と架蔵本の書写者が同一人物と判断されることを考え合わせても、架蔵本に季吟が関わったことは確実と思われる。

このことは、国文学研究資料館においても展示し、広く公表した。

詳細は以下の通り。

① 「季吟しるす」とは何か。季吟と『栄花物語』。

あれだけ王朝物語関係に著書の多い季吟であるのに、栄花物語関係の著書は認められない。

季吟本『栄花物語』のことは伴信友（ばんのぶとも）校本（ノートルダム清心女子大学本奥書）に見え、『栄華物語詳解』にも季吟本栄花物語の名称は見えている。季吟は寛永（かんえい）元年 1624 から宝永（ほうえい）二年 1705。絵入版本刊行時は 52 歳から 62 歳。

②「目録并系図」の冊がないのはなぜか。明暦二年版本の目録は巻名のみ。絵入版本は巻名と巻名の由来箇所などを記す。系図も絵入版本は見やすく注書（ちゅうがき）も多い。全体の感じは相当異なるが、参照しているとは思われる。版本を書写したのならば不要と判断して割愛したことになる。写本が先ならば、当初予定せず、刊行の段階で大きく改訂して一冊追加したことになる。

③絵の丁数と白紙の枚数が合わないところがあるのはなぜか。一箇所のみ。版本では４面８丁。写本では２面４丁。版本にする段階で絵を拡張したことになる。行事の絵なので基の絵があった可能性は大。逆の場合、絵を半減したことになる。

④散らし書きに意味はあるか。奈良絵本を企図したときがあったか。散らし書きになっていない箇所の方が多い。五二面全部に彩色が施されていたとは考えにくいか。彩色されていない絵のほうが多いのならば、本屋が売るために剥がしたとは考えにくい。

⑤絵入版本の版木に被せる原稿である版下を書いた人物と架蔵本の書写者は同一人物ではないかと思われる。第一冊冒頭から、第八冊最後まで同じ調子。字母がほとんど一致する上に字が酷似。それでも完全に一致するわけではない。見れば見るほど字は酷似している。

⑥異同はどう考えられるか。本展示では個別のものは省略する。大きいところとしては、写本一行目の末尾に信じられない誤写がある。すべてにわたって版本が正しい。版本を書写して誤りの程度の低い写本が生まれるとは到底考えにくい。ましてや同筆の可能性を強く感じる。やはり、写本が先。版本の本文の直接の親となったと考えられる。

(2)研究協力者中村成里が進めた学習院本の本文調査は、期間内に、まず、本文の電子化を終えた。さらに、本文研究の視野を広げるべく、調査を広げたが、特に大きな結果を得たのは古筆切の調査であり、学習院本が孤立した本文ではなかったことが徐々にではあるが明らかになってきている。これらの詳細は逐次論文として発表しており、栄花物語本文の研究は本研究により一段と深化した。今後はますます活発な研究が展開されること間違いないと思われる。

(3)絵入版本の本文抄出から刊行に至るまでのプロセスについては以下のように考証した。

結論　絵入り版本ができるまで。

① 目録の作成。

② 抜き出すところを決めた

③ 絵を考えて位置を決めた

④絵の直前に散らし書きを入れた

散らし書きにしてもよいと思われるところが散らし書きになっていない理由は分からない。

⑤全体を抜き出し、絵の所は丁数だけ白紙にした。

⑥絵を貼り付けた　　ここまで第一次抄出本

⑦絵入版本刊行の企画が立つ

⑧本文の原稿を作成するに当たり、参照する一本を用意した。

⑨版下作成者は第一次抄出本書写者と同一人物か

⑩絵は絵入源氏と同じく無彩色とした

⑪一部、絵を足した。

⑫目録・系図を充実し、跋文を付けた。

⑬書肆を入れた

⑭「季吟しるす」と書き入れられた時期はわからないが、元は漆箱か何かに収められており、同梱されていたメモか何かがあって、その箱を失うときに、抄出本『栄花物語』に季吟が関わったことが、何らかの形で残されていた可能性はある。その何らかのものに依って「季吟しるす」と書き入れられたと考えることは自然なことと思われる。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　2　件）
(1)
中村成里
タイトル　『栄花物語』巻二七本文の再検討――学習院大学文学部日本語日本文学科所蔵本と伝二条為明筆切二葉・小林正直旧蔵本をめぐって――
査読無
雑誌・巻号　『教育と研究』早稲田大学本庄高等学院研究紀要 32 号
2014 年
ページ数　１～１５

(2)
中村成里
タイトル　学習院大学文学部日本語日本文学科所蔵『栄花物語』の本文――その性格と価値――
査読有
雑誌・巻号　　中古文学８９
2012 年
ページ数　４６～５８

〔学会発表〕（計　1　件）
中村康夫
『栄花物語』絵入抄出本の本文を抄出したのは誰か
中古文学会
2013 年 10 月 26 日
東北大学

〔その他〕
ホームページ等
「新資料 写本『栄花物語』」
http://www.nijl.ac.jp/pages/event/exhibition/2014/eiga.html
６．研究組織
(1)研究代表者
　中村　康夫　（Nakamura, Yasuo）
　国文学研究資料館・研究部・教授
　研究者番号：60144680

(2)研究協力者
　中村　成里　　（Nakamura, Nari）
　早稲田大学附属本庄高等学校
　研究者番号：